

# 歴史まち歩き

## 神々の息吹が聴こえる 熱田の杜 神話と伝説のみち

### 21 神話のみち 熱田の杜 コース【地下鉄西高蔵駅▶熱田神宮】

遠く中国から不老不死の仙薬を求めて訪れたという徐福、熱田の神が姿を変え日本を救ったという楊貴妃伝説など伝聞奇聞の数々。この地は、日本武尊・源頼朝・織田信長…、さまざまな英雄たちが駆け抜けた戦いの道でもありました。神々の時代より伝わる神話とともに、様々な伝説が残る“古(いにしえ)”の名古屋を巡るみちを歩きます。

**1 高座結御子神社**  
(たかくらむすびみこじんじや)

祭神の高倉下命(たかくらじのみこと)は、この地域の産土神(うぶすながみ)であり「高座さま」と呼ばれ信仰を集めています。熱田神宮とほぼ同年に創祀された古社で、平安時代に定められた延喜式には、名神大社として記載されています。古来より、子育ての神として信仰が篤く、4月3日に幼児成育祈願祭、続く6月1日の例祭には境内末社の御井社(みいしゃ)で名高い「高座の井戸のぞき」があり、数多くの人々が子供を連れてお参りします。幼児に井戸をのぞかせると「疳(かん)の虫封じ」になるという信仰です。

**2 雲心寺(うんしんじ)**

元文5年(1740年)の開山、本尊は約2.4mの阿弥陀如来坐像で、名古屋三大仏の1つと言われるもので市指定文化財。この阿弥陀如来は京都の仏師山本茂助によって制作され、文久2年(1862年)に完成しました。京都総本山知恩院・阿弥陀堂の本尊さまを模したものとされています。特徴的な鐘楼門(2階に鐘楼を備えた門)の中には、十六羅漢にかこまれた鐘があります。この鐘は、太平洋戦争で供出したものが50年ぶりに復活したものです。

**3 青大悲寺(せいだいひじ)**

青大悲寺(せいだいひじ)は、如来教の本山で尼寺。如来教は、宝暦6年(1756年)、この地で生まれた「きの」が、享和2年(1802年)に開基。開祖「きの」の説法の記録は「御教様」と呼ばれ、名古屋弁そのままの語り口のもの現代に伝えられています。通りに面した地蔵堂の中の鉄地蔵は、室町時代に鑄造されたもの。正式には「鑄鉄地蔵菩薩立像」といい愛知県の指定文化財となっています。ほぼ等身大の大きさで、金山の観聴寺の鉄地蔵とともに水野家などの鑄鉄職人(鑄物師)の作と考えられ、この地域が金山神社への信仰とともに鑄鉄集団の拠点地であったとも考えられています。

**4 断夫山古墳(だんぶさんこふん)**

6世紀初頭の築造で全長約151m、高さ16mの、東海地方最大の前方後円墳。古来、日本武尊(やまとたけるのみこと)の妃宮簀媛(みやすひめ)の墓と伝えられていましたが、現在では尾張氏の墓と考えられています。「断夫山」の名は、日本武尊の死後宮簀媛が再婚しなかったこと(夫を断つ)から付けられたものといわれています。国の指定史跡。

**5 白鳥古墳(しろとりこふん)**

6世紀初めに築造された前方後円墳。全長が74m、最大幅25mであったといわれていますが、道路拡幅等のため原型を留めていません。古くは日本武尊の墓と伝えられていましたが、現在では尾張氏の墓と考えられています。古墳の入口には本居宣長の歌碑も立っています。日本武尊が、亡くなった際に、白鳥に姿を変え、草薙剣を預けた宮簀媛の元に飛来した場所という伝説があり、このため白鳥御陵(しろとりごりょう)と呼ばれてきました。

**6 法持寺(ほうじじ)**

曹洞宗、山号は白鳥山(はくちょうざん)。弘法大師が自刻の地蔵菩薩像を本尊として小堂を建立したのに始まるとされています。芭蕉、林桐葉、若山牧水ら文人が句会・歌会を開きました。また、「徳川家康」の著作で有名な山岡宗八の句碑も残っています。

**7 本遠寺(ほんのんじ)**

日蓮宗、山号は妙光山(みょうこうざん)。嘉暦年間(1326年から1329年)日蓮の弟子日澄上人が熱田神宮内の法華堂を本堂として当寺を建立。室町時代の楼門は国宝に指定されていましたが、惜しくも戦災で消失しました。



**8 成福寺(じょうふくじ)**

曹洞宗、山号は北高山(ほっこうざん)。江戸時代後期に17か月間太平洋を漂流した督乗丸の船頭小栗重吉が建立した船形の「船頭重吉の碑」があります。

**9 滝之寺(たきのじ) (滝之坊跡)**

天台宗、山号は圓融山(えんゆうざん)。大永から永禄年間(1521~1570年)頃、連歌師による「滝之坊興行」で知られ、織田信長が幼時、この寺で手習いをしたといわれています。

**10 岡部又右衛門家跡**

小説・映画「火天の城」の主人公としてよく知られるようになった岡部又右衛門。安土城造営に大工棟梁として腕を振るい、5重7階の天守造営を子の岡部又兵衛以俊と共に指揮し、その功により織田信長より総大匠司の位と日本総天主棟梁の称号を与えられ小袖を拝領しましたが、本能寺の変で信長や以俊と共に戦死しました。

**11 熱田神宮**

その昔から「熱田さん」と呼ばれて親しまれ、年間680万人に近い参拝の人々で賑い、地元名古屋はもとより全国の人々から「心のふるさと」として、限らない崇敬と信仰を集めています。三種の神器の一つ草薙神剣をまつり、古来より朝廷、武将の崇敬を集めて、伊勢の神宮につぐ大宮として知られています。